

## 農業者年金制度のポイントと魅力

### 1. 農地の権利名義に関わりなく加入できる

- 加入資格は60歳未満、年間60日以上農業従事、国民年金第1号被保険者

### 2. 少子高齢時代に強い積立方式・確定拠出型

- 将来の自分の年金の原資は自分で保険料を積み立てて準備するため、加入者・受給者数に左右されない安定した財政方式

### 3. 保険料は経営・家計状況により自由に設定

- 月額2万円～6万7千円の間で千円単位で選択、途中で増減も可能
- 加入脱退は自由。途中脱退した場合は、加入者が支払った保険料とその運用益を将来、年金として受給

### 4. 終身年金で80歳までの保証付き

- 原則65歳から生涯、年金を受給。仮に80歳前に亡くなっても、80歳までに受け取れるはずであった年金の現在価値相当額が、「死亡一時金」として遺族に支給

### 5. 支払保険料の全額社会保険料控除で節税

- 所得税・住民税が節税となるほか、農業者年金基金が運用して得られる運用益も非課税

### 6. 保険料の国庫補助（政策支援）

- 認定農業者で青色申告者のほか、それらの者と家族経営協定を結んでいる配偶者や後継者など一定の要件を満たす者が補助対象
- 国庫補助額と運用益による年金（特例付加年金）の受給には「経営継承」が必要
- 政策支援加入者の保険料は月額2万円

### 7. 安全重視の効率的な運用（手数料なし）

- 保険料は年金原資として積み立てられ、制度の運営経費は基本的に国庫負担
- 2002年度～2020年度まで19年間の年平均運用利回りは2.97%

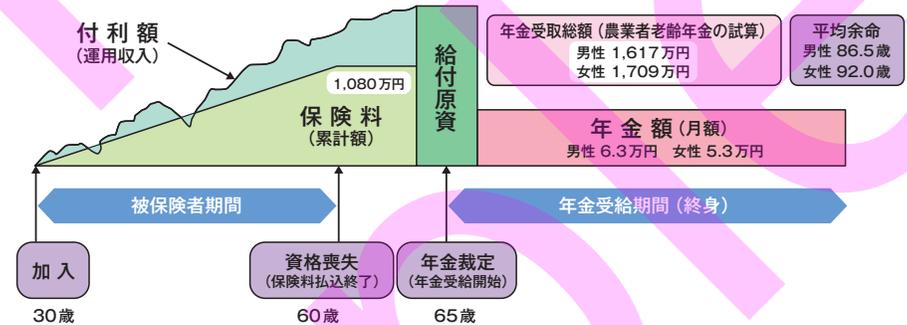
### 8. 1人ごとの積立口座で運用状況が「目に見える」

- 毎年6月末、自分の年金資産の積立・運用状況が通知されます

## 農業者年金（積立方式・確定拠出型）の仕組みと年金額試算

### 仕組み

加入例 加入年齢 30歳 通常加入 運用利回り 2.5% の場合  
保険料 (月額) 3万円



### 年金額の試算（運用利回り2.5%・通常加入）

(単位：万円)

加入年齢	納付期間	月額保険料	保険料納付総額	運用利回り	男性		女性	
					年金月額	年金受取総額	年金月額	年金受取総額
20歳	40年	2	960	2.5%	6.3	1,624	5.3	1,717
30歳	30年	3	1,080	2.5%	6.3	1,617	5.3	1,709
40歳	20年	5.1	1,224	2.5%	6.3	1,627	5.3	1,720
50歳	10年	6.7	804	2.5%	3.7	953	3.1	1,007

(注)

- ・この試算は、65歳までの運用利回りを2.5%、65歳の年金裁定時の予定利率を0.25%とした場合の通常加入の試算です。予定利率0.25%は、農林水産省告示により定められている率です。
- ・制度発足以降の19年間の運用利回りの平均は2.97%です。
- ・年金額は65歳裁定における年金額（年額）であり、年金受取総額は65歳での農業者年金加入者の平均余命を考慮し、男性86.5歳、女性92.0歳まで生存した場合の受取総額です。

(独立行政法人農業者年金基金資料より)

## はじめに

国民の平均寿命は年々延び、2020年には男性が81.64歳、女性は87.74歳（厚労省「簡易生命表」）になっています。また、65歳になった人の平均余命は男性20.05年、女性24.91年で、男女共に90歳前後まで長生きする社会となっています。世界でもトップクラスの長寿国です。厚労省の2021年9月の発表によると、100歳以上の人が8.6万人（うち女性が9割近く）になりました。こうした長寿社会を迎え、「人生100年時代」が現実のものになりつつあります。

長生きの備えは終身保障の年金に勝るものはありません。国民年金に上乘せる農業者年金は、農業者の老後生活の安定には欠かすことができない制度です。将来の自分の年金の原資を自分で積み立てる「積立方式」（確定拠出型）の新たな制度として、2002年にスタートして19年が経過しました。

この間、農業委員会関係組織およびJA系統組織、農業者年金協議会（のうねん倶楽部）、独立行政法人農業者年金基金が連携して加入推進に取り組み、加入者累計は2021年7月末で13万人を突破しました。

本書は、農業者年金の加入の取り組みに大きな成果をあげた農業委員会およびJAの取り組み事例を紹介しています。また現場で汗を流し成果をあげた加入推進部長などリーダーの方々への取り組みのほか、加入者、受給者の安心と喜びの声も収録しました。農業者への制度の周知や加入者を増やすためのノウハウ、工夫、現場の知恵など、学ぶべき点が多々あります。

掲載事例等のほとんどは情報誌「のうねん」（2021年1月号～11月号）に掲載されたものです。一部加筆修正したうえで1冊にまとめました。

本書が、農業者年金の加入推進活動に携わる農業委員会関係者、加入推進部長、JA関係者、農業者年金協議会関係者に広く活用され、活動成果につながれば幸いです。

最後に、現場での取り組み状況についてお聴かせいただいた関係者、加入者、受給者の方々にお礼を申し上げます

2021年11月

全国農業委員会ネットワーク機構  
一般社団法人 全国農業会議所